

第1回

青少年海外派遣

サンタクラリタ市



公益財団法人 松戸市国際交流協会
松戸市 経済振興部 国際推進課

派遣者名簿

2023年3月現在

氏名	学校名	学年
柚木 麻央	かえつ有明高等学校	高1
井上 姫和	江戸川学園取手高等学校	高1
佐々木 もあな	光英VERITAS高等学校	高3

米倉 圭子	松戸市 経済振興部 国際推進課	引率職員
-------	-----------------	------



スケジュール

月日	都市名	時間	摘要
2023年 3/16 (木)	羽田空港集合 羽田空港発 ロサンゼルス着 ↓ サンタクラリタ市	15:00 17:25 11:30 15:00	羽田空港国際線ターミナル集合 デルタ航空にて空路、ロサンゼルスへ 着後、入国審査、税関検査 サンタクラリタ市内観光 サンタクラリタ市役所訪問（市長と面会） ミーティングにてホストファミリーと対面 宿泊ホストファミリー宅泊/引率ホテル泊
3/17 (金)	サンタクラリタ市		朝食 ホストファミリーにてAOCへ送迎 AOCで授業体験・アクティビティ (松戸市について英語で紹介) 宿泊ホストファミリー宅泊/引率ホテル泊
3/18 (土) ～ 3/19 (日)	サンタクラリタ市	各自	ホストファミリーと過ごす ハイキング・ショッピング・ホームパーティー ユニバーサルスタジオ・コンサート見学
3/20 (月)	サンタクラリタ市		朝食 ホストファミリーにてAOCへ送迎 AOCで授業体験・アクティビティ COC体験事業(統計学) 宿泊ホストファミリー宅泊/引率ホテル泊

3/21 (火)	サンタクラリタ市		朝食 ホストファミリーにてAOCへ送迎 AOCで授業体験・成果発表 NBA観戦 宿泊ホストファミリー宅泊/引率ホテル泊
3/22 (水)	サンタクラリタ市 サンタクラリタ市 ↓ ロサンゼルス	10:00 18:00	朝食 ホストファミリーにて引率者ホテルへ送迎 移動、ロサンゼルスへ ロサンゼルス市内観光 ・グリフィス天文台 ・ハリウッド・ハイランド ・サンタモニカビーチ ・全米日系人博物館 ホテル・チェックイン 夕食：市内レストラン（徒歩） 宿泊ミヤコホテル ダウンタウン泊
3/23 (木)	ロサンゼルス発	10:50	移動、空港へ 着後、搭乗手続き 空路、帰国の途へ 機中泊
3/24 (金)	成田空港着	15:10	到着通関後、解散

実施記録

3月16日 (木)

羽田空港発



ロサンゼルス空港着
ロサンゼルス到着後、ハンバーガーショップでランチ。
英語で注文する練習。



☆SONTE CLARITO VOL LEY FTLM OFFICE

(サンタクラリタ市経済振興部フィルムオフィス) 紹介

サンタクラリタ市の主要産業は映画産業であり、2007年にカリフォルニア州における最も経済開発に寄与する事業として評価されている。

目的：多くの撮影を誘致すること

主な業務：LA市、消防局、警察等と調整、撮影場所の視察および営業、住民生活への影響を配慮した撮影の提案

経済効果：3290万ドル/年

撮影本数：547本/年 延べ撮影日：1339日/年

交流の可能性：サンタクラリタ市とロサンゼルスは、松戸市と東京と同じ立地条件であり、サンタクラリタ市から行政が主体的に企業や産業の誘致に関する取り組み（撮影による交通制限等に係る住民理解、提供可能な撮影場所の広報活動・営業）をする手法や展望を学ぶことができると考える。



☆SANTA CLARITA SISTER CITIES PROGRAM

(サンタクラリタ姉妹都市協会) 紹介

NPO法人であり、サンタクラリタ市民の国際理解や異文化理解の促進をしている。

・姉妹都市（2）：エクアドル ティナTENA フィリピン サリヤ SARIAYA

・その他の交流都市：ニカラグア、インド、日本（松戸市）

・チャリティ事業

・交流の可能性：サンタクラリタ市は国際課を組織しておらず、都市間交流は当協会が窓口となる。SCSCPは行政機関、大学と提携を結んでおり、シティマネージャー、市長、市職員、大学教授などが構成員となっている。引き続き、SCSCPを窓口として、都市間交流を構築することになる。NPO法人であり、活動資金調達にチャリティハイク等を実施し、企業から協賛を受けている。



☆ウェルカムパーティ

サンタクラリタ市役所で歓迎会（夕食）及び到着証明書の授与式が行われた。歓迎会には、副市長、教育長、校長、姉妹都市協会理事、市職員及びホストファミリーが出席した。





3月17日（金）

派遣生徒活動

☆ホストチューデントと授業に参加。授業後は、生徒会によるアクティビティが開催され、派遣生徒がプレゼンテーションを披露し、AOCの生徒がカリフォルニア及びサンタクラリタ市の紹介を行い、質疑が闊達に行われ、大変盛り上がった。下校後は、ホストファミリーの家には多くのクラスメイトが参集し、セントパトリックデーを祝いながら、折り紙に挑戦したり、歌を歌って親交を深めた。





職員派遣活動

☆WEST RANCH 高校視察

教育長、WEST RANCH副学校長と協議

協議内容：ハート学区の7つの高校のうち WEST RANCHを訪問。

生徒数は約1700人/4年。3名、1週間程度であれば、松戸市からの青少年の派遣および高校からの派遣の受け入れは可能。

40名の受け入れは不可能ではないが、チャレンジング。

日本語を専攻している者はいないので、授業は必須教科以外に音楽、スポーツ、グラフィックデザイン、経営を選択可能。

交流のポイント：青少年海外派遣について、毎年AOCではなく、年度によっては派遣先の高校を変えてもよいかもしれない。AOCはCOCの一部であり、非常に小さな高校だが、WEST RANCH 高校は一般的なアメリカの高校であり校内も広く、インパクトがある。



☆ COC スペイン語クラス視察

サンタクラリタ市民の約半数はスペイン語圏にルーツを持っており、スペイン語教育も充実。市立松戸高校のスペイン語選択者とスペイン語を通じた交流も可能。

☆ CAL ARTカリフォルニア芸術大学視察

(ウォルト・ディズニー創設)

海外留学を希望する学生は多いが受け入れ先は限られている。海外の芸術大学へ行けなかった学生をパラダイスエアに派遣することができれば参加を希望する学生は多いのではないか。



3月18日(土)

☆チャリティハイク

姉妹都市協会が主催するチャリティハイキング。

ホテル (HOLIDAY INN) 等協賛事業。資金調達の方法について学ぶことができる。



3月18日(土)・19日(日)

☆ホストファミリーと過ごす

(ユニバーサルスタジオ/ディズニーランド/サンタモニカなど)





3月20日（月）

派遣生徒活動

☆AOC体験授業（プロジェクト参加）。生徒会によるカラオケ大会に参加
その後、ホストファミリーとアイススケートを楽しんだ。

職員派遣活動

☆サンタクラリタ市役所ツアー

- ・国際課なし。姉妹都市協会と連携し、国際交流事業を実施。
- ・コミュニティへの還元（コミュニティセンター、図書館、公園、アクティビティプレイス、オークツリーの保存、交通渋滞緩和等）暮らしやすい街、企業・産業誘致の促進。
- ・訪問者は80-100名/日
- ・専門職以外は2-3年で異動。

- ・ INTERNATIONAL STUDENT PROGRAMS AT COC
- ・ COCでは、卒業生の就職先として複数の企業、商工会議所と提携
- ・ 12/115 コミュニティカレッジ@カリフォルニア州
- ・ 自閉症患者の就労支援



3月21日（火）

派遣生徒活動

☆ 成果発表会

成果発表会及び修了式を開催。教育長、AOC校長、姉妹都市協会理事、サンタクラリタ市職員が出席。

派遣生徒のクラスメイトが、一緒に過ごした期間の感想を述べた。

AOCにとって、初めての短期訪問者であり、日本文化の紹介はとても興味深く、アニメやK-POPなど共通の話題もあり、3名の訪問はAOCに大きな活力を与えてくれた、学校全体がとても生き生きしたなど、派遣生徒だけではなく、受け入れ生徒にとっても、貴重な体験であったことが伺えた。

また、派遣生徒及びホストスチューデントも感想を述べた。派遣生徒は、到着時は何も聞こえなかった英語が聞こえるようになったこと、英語が理解できないときにクラスメイトが何度も表現を変えて説明してくれたことなどを通じて、KINDNESSは共通の言語だと感謝をしました。最後に、姉妹都市協会理事より派遣の過程を終えた修了証を受け取りました。



☆INSIGHTS INTO THE AMERICAN CULTURE
アメリカ文化に係る講義



☆NBA観戦

ホストファミリーとロサンゼルスで開催されたバスケットボールの試合観戦！本場のスポーツ観戦を楽しみました。



派遣職員活動

☆ INTERNATIONAL ENGAGEMENT DIVISION 紹介
関西大学、長崎国際大学と提携

- ① 留学 ② 2+2+留学 ③ 企業の職員訓練 ④ サマーキャンパス
- ⑤ オンラインスクール

☆ 琴のコンサート@カリフォルニア芸術大学



3月22日（水） ☆ お別れ



☆ ロサンゼルス観光



3月24日（金）☆ 帰国（羽田空港）



「コンフォートゾーンを抜けたその先は」

柚木 麻央

私の欠点は、人見知りで人と交流することが苦手なところだ。もともと知っていたことだが、アメリカに来てますます気づかされた。

ホストファミリーとの初対面の時、バディが話しかけてきてくれているにも関わらず、毎回、“YES”もしくは“NO”の一言で返答をしていた。他の子たちが楽しそうに会話をしている姿を見て、人見知りで思うように話せない自分自身に焦りや情けなさを感じていた。また、バディの通う学校であるAOCでも小さな声で返事をし、自分から質問をしたりすることもできなかった。そんな自分が恥ずかしく、変わりたいと思った。

アメリカに来て3日目、耳も少し英語に慣れてきた頃、勇気を出して自分からAOCの生徒に質問をした。何歳か、兄弟はいるのかなどといった、至って簡単な質問だが、私にとっては大きな一歩だった。さらに、その質問に対し、話題を広げてくれたり、積極的に話してくれるAOCの仲間に私も必死でくらいついていき、言葉のキャッチボールができるように努めた。その結果、自分の成長を実感することができたできごとがある。

休日にホストファミリーとその友達の家族でサンタモニカに行った時のことだ。初めて会った同年代の3人の女の子がいた。彼女たちは、私に興味を持って話しかけてくれた。その際に、一問一答のように答えるのではなく、質問の内容に付け加えて自分のことを話したり、自分から話題を持ちかけたりした。今振り返ってみると、その時の私は今までとは見違えるほど生き生きとしていて、前向きなマインドを持っていたと思う。

冒頭で、人見知りで人と交流することが苦手なところは私の欠点であると述べたが、それらは欠点なのではなく、ある種の私のアイデンティティなのではないだろうか。私が人見知りじゃなければ、自分を変えたいと思えなかったかもしれない。私が人と交流することが苦手じゃなければ、みんなの優しさを存分に感じることができなかったかもしれない。

今までの私はずっとコンフォートゾーンの中にいた。コンフォートゾーンにいる私は、自分が誰からも見つからないようにベールを覆って守っているようで、本当は自分の気持ちを素直に言動に移せず自分自身を押さえつけていたことに気が付いた。今回の派遣を通して、そんな自分を自らの手でコンフォートゾーンから解放させてあげることができたと思う。

一般的に、コンフォートゾーンを抜けたその先は、フィアーズゾーンだといわれている。しかし、私にとってのコンフォートゾーンを抜けたその先は、もう一つのコンフォートゾーン。つまり、そこが私にとって居心地の良い場所になっていた。

最後に、私がホストマザーからもらったこんな言葉を添えようと思う。「このサンタクラリタがあなたにとって第二の故郷であることを忘れないでください。」

また必ず帰ってきたいと思う。第二の故郷に。

感想文

井上 姫和

《高校及び大学について》

高校生のうちから大学の授業を受講し単位取得でき、多くの学生がこの制度を利用している。早期での大学卒業を目指すのではなく、学生それぞれが海外留学など自らの成長に時間を費やすことを考えている。

《授業での違いについて》

日本の授業では先生から教えてもらうことに多くの時間が割かれているが、AOCでは、お互いの意見をぶつけあう授業が中心であった。歴史の授業でプレゼンテーションを作成するという課題が出ており、その発表の日の授業に出席した。プレゼンテーションの形は自由で、写真や音声を入れ自分たちで編集した映像を流したり、黒板に写真を一枚貼りそれについて5分程話をしたりするグループがあった。生徒がプレゼンテーションを行った後にはたくさんの生徒の手が上がり、プレゼンテーションの良かった点、改善点を述べていく。ただ意見を述べるのではなく、そのプレゼンテーションを褒めるのも印象的であった。私の英語力では会話を聞き取ることが精一杯で発言できる余裕がなかった。また、パソコンやタブレットを活用したワークが多かった。

《演説の違いについて》

AOCにも生徒会と同じような組織があり、ちょうど選挙の日だったため演説を見に行ったのだが、あまりの違いに大変驚いた。日本と違いかしまった様子ではなく、歌を歌ったりダンスをしたり等自由で、印象的であった。

《家庭学習での違いについて》

プレゼンテーションやレポートを作成するという課題が多く、主にパソコンやタブレットを使用し学習をすることが多いように感じた。

《国際理解について》

ホストファミリー（バディとお母さん）が私と同じBTSファンであり、共通の話題で会話が弾んだ。バディのお祖母さん（同居されている）が日本人で、バディもお母さんも日本文化に詳しいことがわかったが、私のために、極力米国のやり方をみせ、私に学ばせてくれた。

AOCでは、韓国系、アラブ系、インド系、ベトナム系といった様々な国をルーツに持つ生徒が学んでいて、人種に対する偏見はまったく感じなかった。米国の多様性を感じた。

《都市間交流について》

私のホストファミリーが、私たちが帰国したちょうど一週間後に日本旅行を計画しており、日本でお会いすることができた。今度はホストファミリーを我が家にお招きしたい。

派遣事業を終えて感じたこと

佐々木 もあな

まず初めにこの派遣事業を主催してくださった方、関わっていただいた全ての方に感謝したいと思います。この短いようで長かった9日間は私にとって貴重な体験でした。

初日でのホストファミリーとの会話では思ったように伝えることもできず、また想像を遥かに超える会話のスピードに驚くばかりでした。正直初日は理想と現実の壁にぶつかっていました。

次の日にAOCに行き、自己紹介をするとたくさんの生徒から、「どこから来たの？日本はどんなところ?!」など質問攻めの毎日でした。私は間違えていても話そう！と決心し、とにかく話し続けました。

授業では日本とアメリカの形態が全く違うことに驚きました。具体的に、日本では比較的先生から生徒へと一方通行が多い中、アメリカでは逆に生徒から先生へ質問や意見を発言するなど積極性に長けていました。自分の意見を発言すること、また友達の意見を聞いてどう思ったかを自分の言葉で伝える力は自分よりも遥かにアメリカの生徒の方が持っていると感じました。また宿題や授業中もタブレットで配信されているのが多いと感じました。

私が派遣事業でアメリカのホストファミリーとの交流、現地の高校生との関わりを通し学んだことが大きく分けて2つあります。

1つ目は自分の意見をどうやって相手に印象付けるか、です。AOCの初日に生徒会のスピーチを生で見ることができました。10人ほどが自分をアピールするために様々な方法で伝えていました。相手にどれだけ印象を与えることができるのか、そのスキルに自分とのレベルに気付かされました。スピーチ力、発言力、プレゼン力、全てにおいて自分らしく伝えているところにアメリカの多様性を実感しました。

2つ目は個人主義と団体主義についてです。日本は個人よりも大多数に合わせて行動するが、アメリカは常に自分主体という個人主義の違いを感じました。自分の意見をあまり曲げない、貫き通すところはアメリカ社会で生き残っていくために大切なスキルなのかもしれないと感じました。だからといって、相手の意見を聞かないという訳でもなく、むしろ相手をリスペクトし、受け入れるところは大事な要素なのだと感じました。

多民族国家だからこそ、肌の色や人種で差別するのではなく、実力社会で生きるアメリカ社会は私にとって刺激あるものでした。

この2つが今の自分に欠けているからこそ感じる事ができたのではないかと思います。

AOCで仲良くなった友達、ホストファミリーは今でも連絡を取り合う仲になっています。この関係は一生の宝物なので、この先も続けていきたいと思えます。



